

市民と市長の意見交換会<新穂地区> 質疑要旨

日時：令和3年12月19日（日）10：00~11:45 会場：トキのむら元気館

参加人数：90名

○質疑要旨

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
新穂長畝（島）	移住を呼び込むよりもＵターンやＩターンをさせることが重要と考える。 郷土愛は環境によって育まれることから、小さなコミュニティである小中学校が重要と考えている。理由は多様にあるが、経費削減のための学校統廃合は実施すべきでなく、地域コミュニティの維持をどう考えるか説明をお願いします。	学校の統廃合で重要なことは、子どもの教育に対して何が大事なのかを考えメリットとデメリットを比較し議論しなければならない。経費の面で統廃合を進めることはしない。 ＵＩターンは重要だと理解しているが、地域の受入態勢も必要になる。現在、キャリア教育を進めているが、子どもに帰ってくるように言える状況にするため、農業も魅力的なものにしなければならいし、ＩＴ業務も佐渡でできるようにする必要がある。 佐渡には仕事がないイメージがあるが、必要とする職種があるので、高校生を中心に情報を与える機会を設ける。	教育総務課 移住交流推進課 地域振興課
上大野	約４割が転作となっていて、作付けされている大豆やそばよりも、加工用米の栽培に力を入れるべきで行政として広く周知する必要があるのではないか。 トキの餌場となるビオトープ管理のための補助金があるが増額を希望する。	加工用米の需給バランスを考慮する必要があるが、転作田を活用したコメの需給情勢や国の支援策をみながら有効な生産調整の仕組み、受給率の向上につながる施策を考えたい。 佐渡がグリーン・デスティネーションズから世界の持続可能な観光地100選に選ばれた。環境の島としての意識が高いので観光面での活用を検討したい。 ビオトープ補助金については、検討したい。	農業政策課
下新穂	佐和田病院の閉院に伴い、島内でリウマチ専門医の受診ができなくなる。 島外での受診となると経済的や体力的な負担も大きくなることから、リウマチ専門医など医療体制の確保について説明をお願いします。	月１回程度、リウマチ専門医を確保し島内で診察できるよう県と協議している。	医療対策課
新穂北方	佐渡の４大鉱山の一つである新穂銀山が５月頃に国史跡の指定を受ける見通しである。佐渡金山を含めた来島者へのサービス網の構築が必要となるが、支所・サービスセンターの活用やガイド育成などの方向性について説明をお願いします。 また、来島者を案内する道路標識や案内板の設置も必要と考えている。	行政効率の面から観光業務を支所・サービスセンターで担うことは考えていない。県が世界遺産と文化財関係課を観光局入れる改編したことから、市も世界遺産とスポーツツーリズムを観光セクションに設け、支所・サービスセンターは状況により業務を協力をする体制としたい。 ガイドは一定程度必要と考えていて現在育成している。 新たな案内看板を設けるのではなく、カーナビゲーションやスマートフォンの普及により、２年後は必要なくなるのでは考えている。 わかりやすい看板は必要と考えているので、新規の物については、必要性を考えながら検討していきたい。	世界遺産推進課 観光振興課
新穂	最古園跡地は駐車場として活用されているが、路上駐車 の減少や地域商店の活性化、防火緩衝地帯としてのメリットがあるため、売約するのではなく地域発展を目的とした公共駐車場として使用することは可能か説明をお願いします。	売却の意図や活用については持ち帰って判断したい。 意見や要望があれば支所・サービスセンターへ申し出ていただき、それを踏まえて判断したい。	防災管財課

市民と市長の意見交換会<新穂地区> 質疑要旨

新穂潟上	バス停まで徒歩で約20分かかりる地域で生活しているが、車がないことに不便を感じている。 公共交通が少ない地区の対応について、どのように考えているか説明をお願いします。。	有償事業者との関係もあるが、公共交通整備の問題は考えなければならない。 既存事業者を活用したデマンドバス運行やグリーンスローモビリティなども含めて検討したい。 運転免許返納者等の対策だけでなく、買い物やゴミ出し支援など、地域コミュニティ守っていく方策を考える。	交通政策課
上新穂	各地区で収集した民俗学的な資料や収蔵に力を注いで欲しい。特に世界的な資料となりうるトキ保護資料について、NHK放送大学の河合先生が学術論文を書いた際の資料も自宅で保管している。	文化財の保全や編さんの必要性は理解しているが、現状は世界遺産登録が中心となっていて、本質である市民の文化財に投資されていない。 組織改編のなかで、世界遺産登録までの2年間をワンセットで考え、文化財担当セクションをどうするか整理していきたい。	社会教育課
新穂	世界遺産登録になると多数の観光客が訪れるが、現在の状況では受け入れるキャパシティが不足している。 先に登録されてた世界遺産の事例状況を見ると一過性となっているが、佐渡はどう考えているのか。 また飛行機就航の現状について説明をお願いします。 佐渡市のふるさと納税の収入額は約3億円程度となっているが、増額するための方策について説明をお願いします。	現状、受入キャパシティが少ないことは起業家は把握しており、ゲストハウスやなど長期滞在型の施設が少しずつ増えている。佐渡は自然アクティビティも充実しているので、キャンプの活用を観光振興課に指示している。自然の中でトキをみながら生活できる一方で、自然から隔離した高級宿泊施設を合わせた戦略を考えている。 飛行機の就航について、トキエア（株）が短距離で離陸可能な機体「ATR42-600S」での2023年就航を当初計画していたが、コロナの影響で機体納入が2025年と遅れるため、現行機の「ATR42-600」での2023年以降就航についてトキエア、ATR社、県等で検討している。国も首都圏便就航について、前向きに応援してもらっている。 ふるさと納税の増額には、件数だけでなく単価を上げなければならない。マーケティングの見直しを行うとともに、組織内においても女性を含む若手職員によるプロジェクトチームを結成し、いろいろな目線で検討している。	観光振興課 交通政策課 地域振興課